



# 小学校だより

2023年  
1学期号  
2023.7.14

Vol.  
153

## あいさつ応援団

校長 相川 保敏

朝、正門であいさつをするのが私の日課になっています。子どもたちの接点として大切にしています。何人かの子どもたちが一緒に正門に立って朝のあいさつをしてくれます。今年度になって、一緒にあいさつしてくれる子どもたちが増えてきました。私は「この子どもたちを『あいさつ応援団』と呼んでいます。」

そもそもこの「あいさつ応援団」は、昨年六月のある朝、当時四年生の一人の子からスタートしました。その後、同年の子が時折参加するようになり、さらに一週間は必ずと当時二年生の数名も加わってくれるようになりました。こうした「あいさつ応援団」は、気が向いたときや時間があるときに自由に参加してくれるので、〇人の日もあれば五人の時もありました。年間を振り返ると、暑さや寒さが厳しい時期はだれも来ないという日もありましたが、しばらくするとまた顔を出してくれるという感じでした。昨年度は、このように子どもたちは都合に合わせて自主的に「あいさつ応援団」に加わり、朝のあいさつに花を添えてくれました。

本年度に入り、「しばらくあいさつ応援団はいませんでしたが、ある日、新一年生が一人、あいさつ応援団」として参加



▲体操服に着替えてまず1人が参加



▲この日は7人に増えました

してくれました。すると、他の二年生も一人、二人と加わり、どんどん応援団が増えていきました。時々、三年生や四年生、五年生も参加してくれることがありますが、現在は新一年生が主力になっています。本年度も「あいさつ応援団」は、〇人の日もありますが、多い日は十人以上も参加してくれる日もあります。人数が多い日は、声で圧倒しないようにあいさつの声を少し小さくしたり、相手があいさつするまで少し待つような工夫をしたりして、気持ちの良いあいさつになるように心がけています。また、引率の保護者の方が、正門を出られる際には礼儀正しく、「ありがとうございます」という声をかけています。

しかし、子どもたちは毎朝登校すると、朝の準備をしたり、体操服に着替えたり、友達と遊んだり、植物に水をあげたりと、なかなか忙しい状況です。水やりのペットボトルを持たず、正門に駆けつけてくれたり、中には登校時間を早めたりしている子も見られます。そうした中でも、正門まで大急ぎで来てあいさつをしてくれる子どもたちは、何をモチベーションとしてあいさつしているのでしょうか。よく「あいさつ応援団」に加わってくれる三名の二年生を代表してインタビューしてみました。

Q どうして正門で朝のあいさつをしようと思ったのですか？

- 校長先生が「あいさつは大切なことと話してくれたのでやってみようと思った。
  - 去年の二年生がやっていたので、やってみようと思った。
  - 友達かやっていると、自分もやってみようと思った。
- Q あいさつをするってどんな良いところがありますか？
- 担任の先生や他の先生から頑張っているねと言われることがある。
  - 他の人たちからも頑張っているねと言われることがある。
- あいさつしていると、とても楽しくなる。

Q あいさつをするってどんな気持ちになりますか？

- 気持ちがいい。
- うれしくなる。
- 楽しい。

Q これからどうしていきたいですか？

- 三年生まで、続けていきたい。
  - できるだけ続けていきたい。
  - 六年生まで続けていきたい。
- (校長先生より背が高くなるかも…笑)



▲3人へのインタビューの様子

インタビューでは、「あいさつをする」と「気持ちがいい」「うれしくなる」「楽しい」という答えが返ってきました。まさに、「あいさつ」の本質ではないかと思えます。

多くの子どもたちがあいさつをする姿を、初めは不思議そうに見ていた新一年生も、今は元気にあいさつを返してくれるようになりました。引率の保護者の方も温かいまなざしで「あいさつ応援団」を見守ってくれています。

梶山小学校で大切にしている「朝のあいさつ」が、子どもたち自身の手で去年の二年生から今年の二年生に受け継がれていると感じます。来年の二年生にも受け継がれていくのを、私も楽しみにしています。

これから、暑い日が続きますので、「あいさつ応援団」の子どもたちの自主性にゆだねながらも、無理をせずに続けていけるよう校長としてフォローしていきたいと思えます。



▲雨の日もあいさつを続ける子どもたち

### 特集

## コロナ禍が明けて

委員会報告……………P.4

学期の行事……………P.5

学年トピックス……………P.6

P.17

PTA……………P.18

P.19

一学期の思い出……………P.20

P.2  
P.3